



# コピー誌総集編

## 2+



ADULT ONLY






ハンタ娘：へへへ買ったのいいでしょ  
Pバケツ：グッジョブ!グッジョブ!

Pバケツ：お～い狩行こうぜ  
ハンタ娘：ちょっと待って  
今着替えてるから  
Pバケツ：ちょwwwおまwww  
ガルニダwwwwww

**MHF**



ハンタ娘：着替えたけどどうしたの  
固まっちゃっで?  
あ またクーラーとか  
忘れたんでしょお…

ハンタ娘：も～しょうがないなあ  
またあげるから  
今度は忘れないでよね

Pバケツ：その動作でも揺れるのがっ!

ハンタ娘：ん?なにが?



Pバケツ：おっばい!おっばい!

ハンタ娘：えあ?な…っ

Pバケツ：たふんたふんたふん

ハンタ娘：いきなりなにおっ…あっ

Pバケツ：タップタップタップ

ハンタ娘：ちょっと…ダメえ

はみでちゃう…ああん

Pバケツ：爆弾おきます!爆弾おきます!

ハンタ娘：あ…はあんっ

あっあっ…あああ—っ

Pバケツ：ちょwwwオレ濃汁出すぎwww

ハンタ娘：あんたね…っ(怒)

Pバケツ：よしパパ パパのフルフルで

モンスター狩っちゃうぞ

ハンタ娘：大のおっばいで散々しといてそれかい  
殺す…

Pバケツ：ちょwwお姉さんそんなことしたら  
新しい世界が見えちゃう!

あ— — —っ!



「へんたい！そこは嫌なんだからっ！」

「魅杏です…何よ  
また私を指名したの…別にいいけど」

「魅杏ちゃん毛深い割りにお尻の穴綺麗だよ」

「もうこんなの…ひっ…やめてよっ」

「この間は結構気持ちよさそうな声  
あげてたじゃない」

「おじさんがプレゼントした下着  
履いで来てくれたんだよく見せてよ」



「だめっ…だめえ！もうっ膣内で射精すの  
やめてえ…あっ…あう！」

「っ…ぐっ」

「今日も楽しもうねえ」

「あっ…あっ…いやあ…あんっ」

「ふうむ！…孕めえ！膣奥でたっぷりしてるぞお  
絶対妊娠するくらい濃いのをお…おお！」

「おじさんの手淫に…はあ  
が…馴染んできたねえ」

「フン…勝手に言ってくれればいいわ…  
私は誰のモノでもないんだから…あうっ」

「やあ…ああ…ぬいでえ…」

「うへへ…まだまだおさまらないな…今日ば延長して  
徹底的に魅杏ちゃんのオマンコを開発してやる」

「他の客とはしちやだめだよ  
魅杏ちゃんのオマンコは  
おじさん専用なんだからね」



「れちゅ…ちゅ…ほあん…あふう…ちゅ」



「もっとベロを絡ませて…れるお…じゅ  
いいぞお…いまご褒美にたっぷり  
膣内射精してやるからな…じゅる」

「あっ…ひっ…そんなに突いたら  
歌えないでしょうっ…ああん！」



「フンっ！ふうん！早くシクロしないと  
はあ…はあ おじさん射精ちやうよっ！」

「ぶふう…久しぶりのデートだから年甲斐もなく興奮しちゃったよ…で話ってなんだった？」



「フン…もういいわよ…バカ」



# 魅杏

「にや…」  
「えあ？どうした魅杏？」  
「動いた…」  
「なにが？」  
「あなたと私の赤ちゃんよっ…バカ」  
「じゃあ今日もパパが挨拶してやらんといかんなあ魅杏」  
「フン…しょうがないわねきで…ア・ナ・タ」

とゆうピュアなおはなし





ひな子



いっしょに子作り





「あ、来たなあ」

「今、じつは準備は終わってるから」

「おごめが」



「ふん...」

「ふん...」

「ふん...」



「奥までスプーって挿入れて」

「一旦腰をひいてまた突き入れるの」

「うん、わがした？」

「まあ、お上ははごめね」



「今日もお上はがら」

「せうとみるねえ」

「まあ、お上を」

「フーン、あてがう...」





「最初はゆいぐりね」



「あーもう膣内はあ！」



「さあ、赤んぼとておなをん…」



「今日4回目なのよ、うたなは…」

「うたなは…」



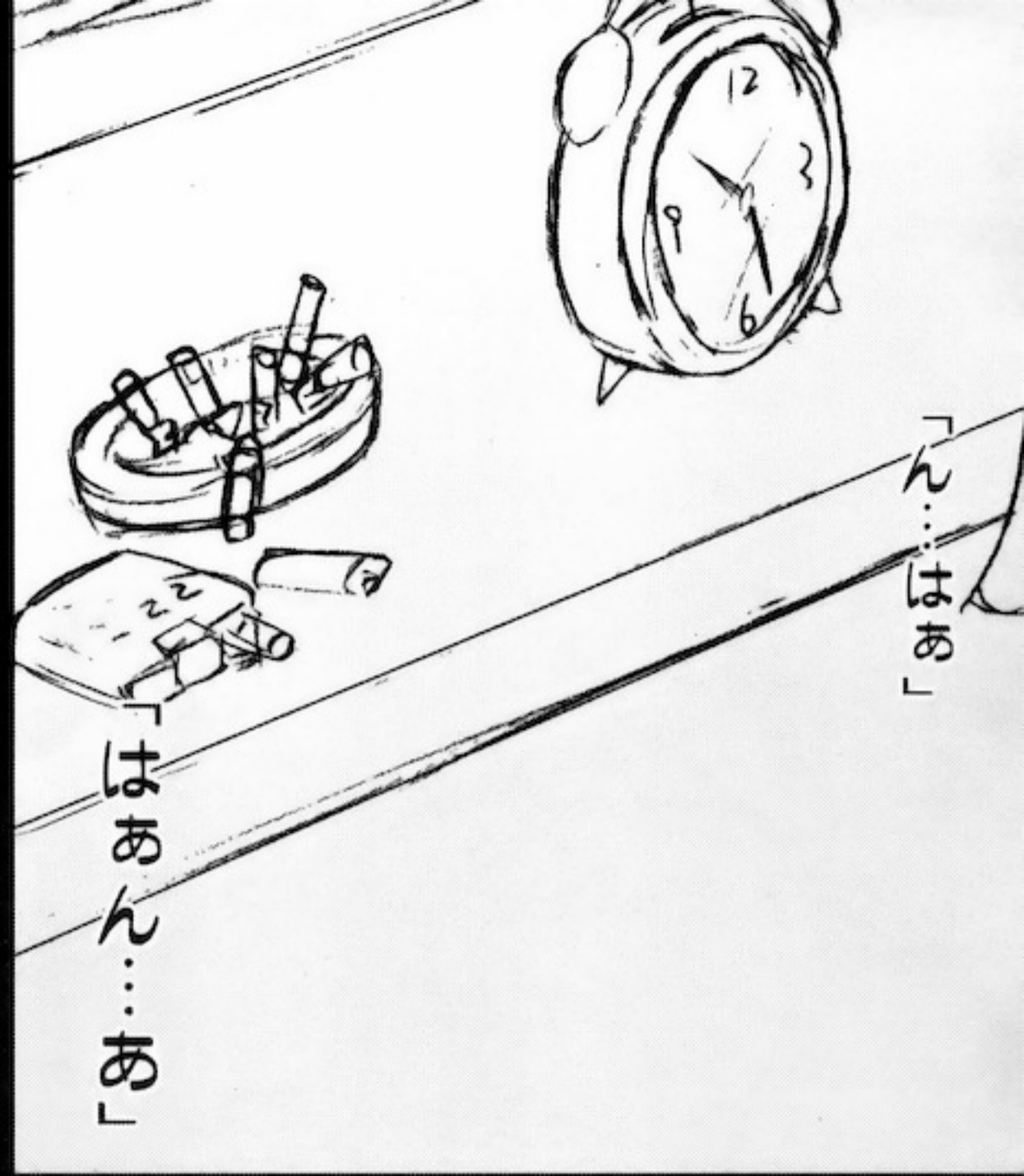






「寝れないの？」

「ひ…ひはしづり…最近見ないから心配したよ」



「2…168」

「はあん…あ」



「ぐ」

「みせ」

「あん…ちよしと待て」



「みせ」

「みせ」

「ちよし」



「みせ」

「みせ」

「みせ」

「ああん…だめえ音聞かれちゃっし」



「みせ」

「私も最近の時間じゃ寝れなんだよ」





「あーん」

「あーん」



「あーん」

「それ握って」



「あーん」

「あーん」



「あーん」

「あーん」



「あーん」

「あーん」



「あーん」

「あーん」









「お見の穴見ちゃダメだかね  
おまこい見なごめい見ずかしも」

くぽくぽ



「またあ  
溢れちゃうー」

びゅん  
びゅん



キヌウー!

「あははは  
はあはあ」



「早く寝なきやだめだよ  
夜更かしは良くないからね」

「でも私たち毎日愛し合っているから  
また見に来てね、約束だかね」



「んふふ  
ピース」

「ふえんさおも  
上手くなつたよ」



「あははは  
拭けますからあ」

くぽくぽ



「見ろーおっぱいさっさと」

スポンジカーのせいでさっさと赤ちゃ

私のお腹でさっさとさっさと大さくなさる

もしもすぐ産まされるんだよー」



「スポンジカーのせいでさっさと

私のおっぱいさっさとさっさとさっさと

二人目もすぐ作りたいって張り切ってるんだよー

私のお父さんとさっさとさっさとさっさとさっさと

またいつばい交尾するからさっさとさっさとさっさとさっさと



プロジェクト  
SEX  
村の過疎化を  
救え！  
舞篇



不知火舞



これは少子化に悩む村の過疎化を救うために  
立ち上がった男の苦闘の記録である。

この和室に布団が  
敷かれただけの部屋が  
男の戦場になった。  
それは実に百七十三日におよんだ。

和室には村の未来を託された女がいた。

不知火 舞  
くの一 二十一歳  
胸八十七 胸五十四 尻九十

男をいきり立たせるには十分な身体だった。

「でかくてイ尻だ これなら元気な子供が産めるだろう。」

「おまんこも弾力があって長期にわたって  
使ってもあきそうにない。」



「赤子がいくら乳を吸っても絶えることはないだろう。」

「たわわに実ったおっぱい 質量も申し分ない。」



「この女を妊娠させなければ村が滅んでしまう！」  
男は大なる志を胸に愛撫を入念におこなった。

舞が反応をしめす場所を少しずらしたが確実に  
探し当てていった。  
数時間に渡る愛撫により舞の身体の緊張が  
消えた頃男は決断した。





巧みな愛撫により蕩けていた舞の膣内は  
キツイがねっとり絡みつき男を射精に導こうと  
激しくうねった。

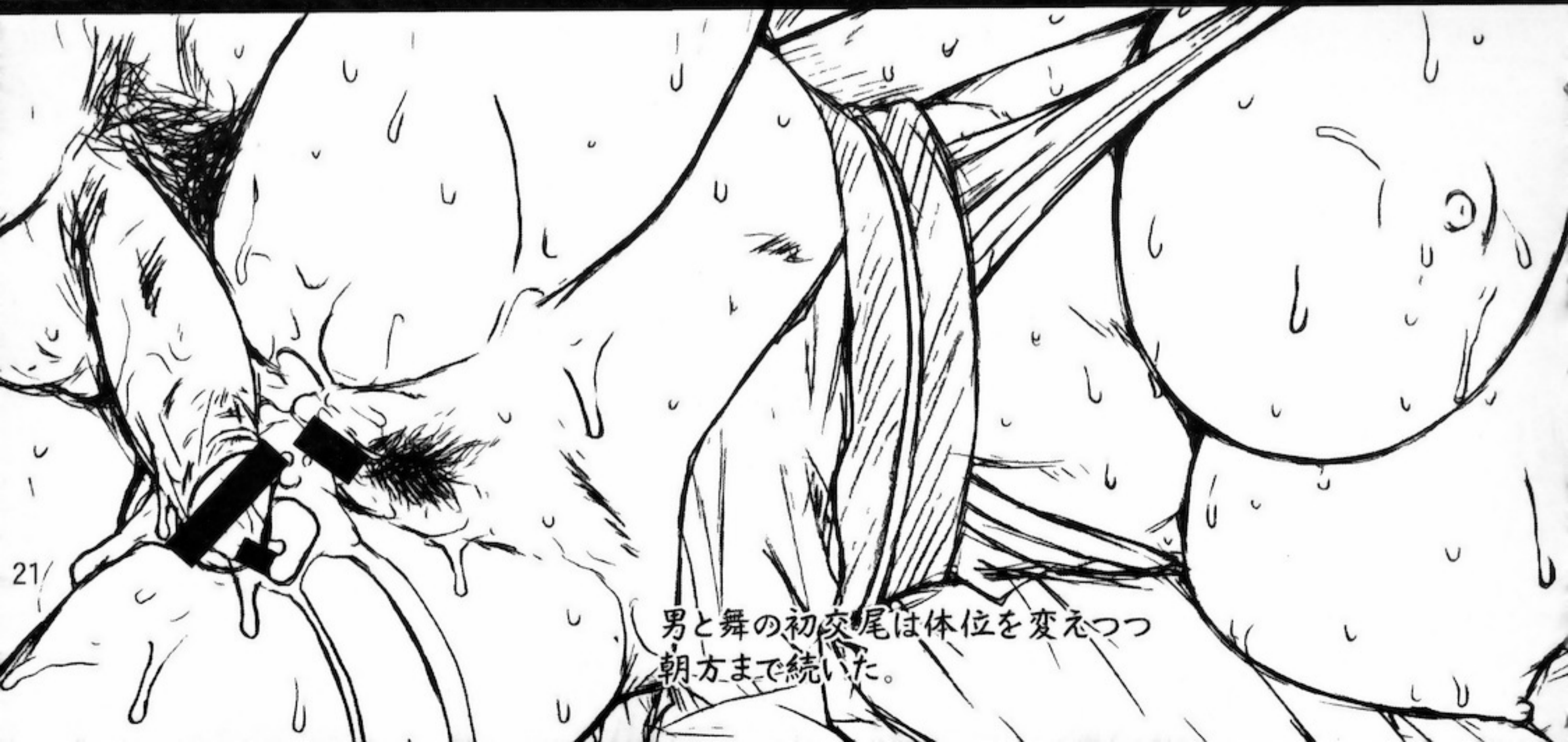


「よし！挿入するならいまだっ！」  
男は濡れそぼった舞の女性器に  
赤黒い男性器を突きたてた。

舞に婚約者がいると知っていた男は  
稚拙に時には激しく腰を突き  
舞の膣奥に所有者の証である熱い子種を  
何度も何度も送らせた！



「うう、またでるっ！」  
「やあっ！もうだしちゃだめえ！！」  
「ふううっ！コレで妊娠しろ！ワシのこを孕め！」  
「いやああ！アンディ・私妊娠させられちゃう！  
アンディ以外の精子であかちゃんできちゃうっ！」



男と舞の初交尾は体位を変えつつ  
朝方まで続いた。





男のゆうまゝに恋人のように  
熱く舌を絡め。



言われるまでもなく男の男性器に  
むしゃぶりつき奉仕を行った。



連日日夜の交尾も二ヶ月を過ぎる頃  
舞も積極的に男を向かい入れるようになった。



「アンテイ……出さないで言ったのに  
危険日のおまんこに4回も出されちゃったの  
ごめんなさい……」  
舞の女性器からは行為の証が  
トロトロと止まることなく溢れていた。

「今日もたくさん出たな。」  
男は笑った。

村滅亡を背負った男の精子は  
薄まるどころか日増しに濃さを増していった。

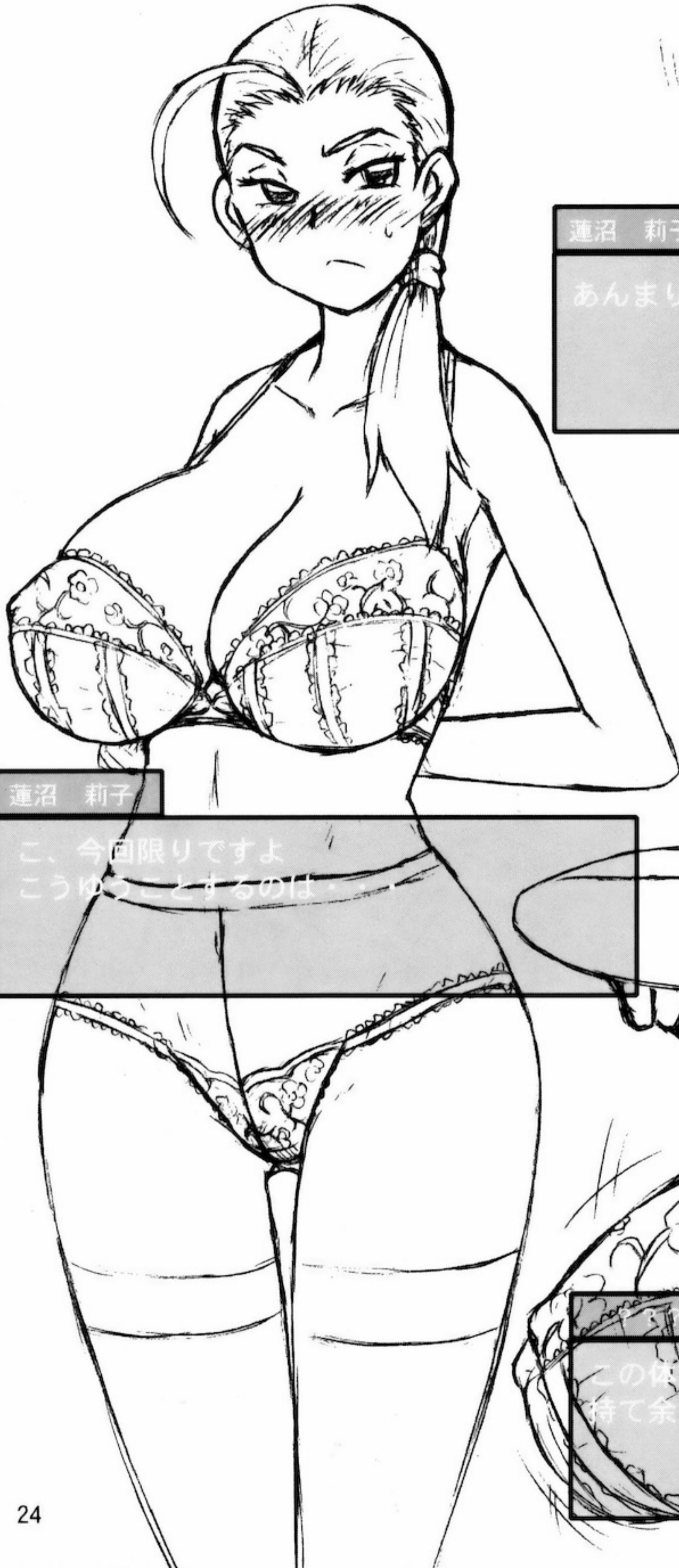


そして百七十三日目  
舞の妊娠が判明し  
男の体力気力を振り絞った最初の戦いが終わった。  
舞がフィアンセ以外の男の男性器に完全に屈服した  
時だった。

「立派なボテ腹になったな。  
母乳もしっかりでる。」  
舞が安定期に入った頃  
男はまた舞の側にいた。  
アフターケアも忘れないのが  
男の信条だった。

「産んだらまた孕ましてやるからな。」男は言った。  
「ハイ……宜しくお願いします。」舞は微笑んだ。  
その後男の子を5人産み  
現在も  
日本一の子宝母親を目指して日夜奮闘しているとゆう。  
村の過疎化は一転して人口増加に向かうだろう。





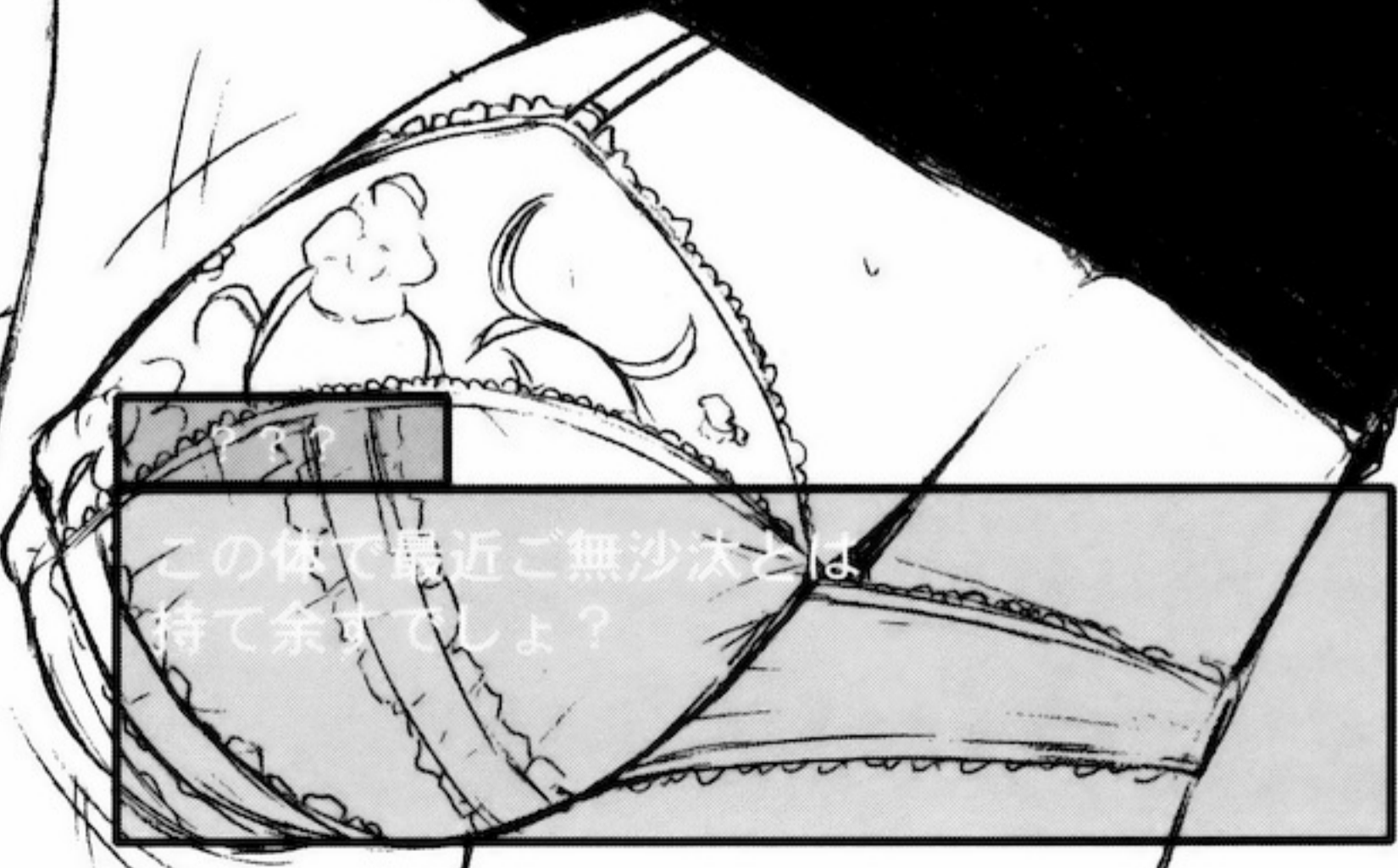
蓮沼 莉子

あんまり見ないでください!



蓮沼 莉子

こ、今回限りですよ  
こうゆうことするのは...



蓮沼 莉子

この体で最近ご無沙汰とは  
持て余すでしょ?





???

(肌は白いも乳首もピンクですぐにでも  
むしゃぶりがきなくなるわ)

蓮沼 莉子

えんですか  
そんなにジロジロ見て...

蓮沼 莉子

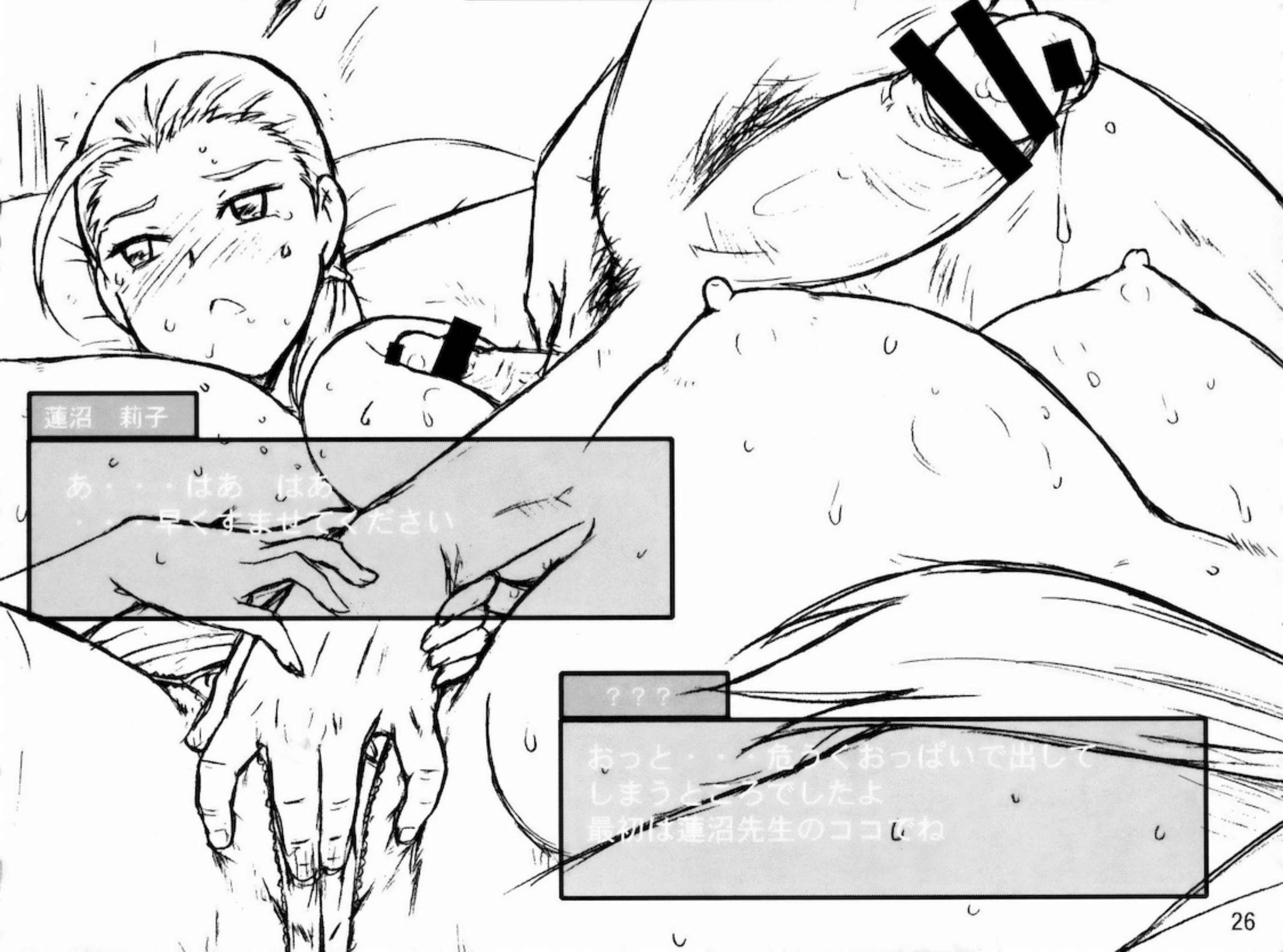
て、そんなもの近づけないでください!  
(こんなの見たことない)





蓮沼 莉子

やだ、そんなの舐められません  
お、おっばいですか？  
……わかりました



蓮沼 莉子

あ……はあ はあ  
早くすませてください

???

おっと……危うくおっばいで出して  
しまうところでしたよ  
最初は蓮沼先生のココぢね



運沼 莉子

んっ、く、あ、あうっ  
外に出して、あうっ  
中はだめえ！  
あああああ、いやあ

???

最近はかなり馴染んできましたなあ  
子○ポにおしゃぶりついて離れませんよ  
もう一回しときますか

運沼 莉子

あ、またするんです？  
明日 朝はや、ああ  
あ、お、あ、あ、あ、あ  
ひゃっ、あ、あ、あ

???

おお、そうそう  
裏筋から鬼頭を詰め回すよがこ  
いいですよ  
さすが運沼先生物覚えがいい





蓮沼 莉子

あは・・・お腹に硬いのが  
挿入るのはだめです・・・  
安定期になるまで待つてください

蓮沼 莉子

ちょっと膨らんできたのわかりますか？  
最初はちょっとびっくりしたけど今は日増し  
に大きくなるのがうれしいんですよ？

蓮沼 莉子

あん・・・すごい  
今日も濃ゆいのが出ますね  
健康ですよ・・・元気すぎるくらい





蓮沼 莉子  
安定期に入ったからってそんなに毎日  
適度な運動は必要ですけど  
あの... やさしめですよ?

蓮沼 莉子  
ひゃあいつ...っ!  
イク...赤ちゃんに精子まっかけられて  
イクのお!  
っく... あああああ

蓮沼 莉子  
はか...またこんなにいっは  
もっと赤ちゃんにミルク  
飲ませてあげてください...



**コピー誌総集編 2+**

**発行日** 2010/8/15

**著者** 民兵一号

**発行** ダシガラ 100%

<http://orange.zero.jp/dai14.emi.fox/>

**印刷** サクセス

本書の無断転載・複製を禁止します。  
未成年者の購読を禁じます。



民兵一号



ダシガラ 100%

成人向け

